

日中友好新聞

府連通信

2022年8月号
 日本中国友好協会
 大阪府連合会
 〒530-0013
 大阪市北区
 芝田2-3-19
 東洋ビル本館207
 TEL06-6372-8131
 FAX06-6372-8132
 郵便振替口座
 00970-5-8978
 E-mail: info
 @jcfaosaka.org
 ホームページ
 http://
 jcfaosaka.org/

第68回日中大阪府連大会を終えて

大阪府連会長 渡辺 武

7月24日(日)天満の国労大 阪会館で開かれた丸一年ぶりの府連大会。
 この一年コロナ禍により、私たちの活動も行事や会議の中止・延期・自粛を余儀なくされる中、内外情勢の激変が続き、国交正常化50周年を迎えた日中関係についても、尖閣・香港・台湾・ウイグル人権問題などが重くのしかかり、日中友好運動をめぐる環境は厳しい物でした。



この1、2年体調が優れず、家にこもりがちで、重責を担うべき役員でありながら、協会の活動に積極的に参加できなかったもどかしさを抱え続けてきました。日常生活から離れると、府連や支部のさまざまな地道な活動が見えにくくなります。

とくに、ロシアのウクライナ侵略、北朝鮮のミサイル発射などを口実に我が国の軍拡・改憲を煽る勢力が声を強めてきました。
 このような状況の中、日中友好協会の果たすべき役割は何なのか、実際に我が府連はどんな



府連内で展開されてきているのだということ、そして、今年度の活動の方向も明らかになっていっていると改めて思い知らされました。気を持ち直して頑張りたいと思います。
 (写真は支部結成で表彰された富田林支部長・岡田英樹さんと府連会長渡辺武さん)

大阪府連大会 新支部結成で豊かな活動

大阪府連第68回大会は、7月24日31名が参加して開催され、9名から発言があり、新役員を選出しました。

富田林支部 (岡田英樹)

第一は帰国者支援です。市内にある中国残留帰国者が作った高齢者施設を訪ね、日中友好に取り組んでいる話を話し、今後一緒に話ができる機会を設ける予定です。第二は市の国際交流課に挨拶に行き活動報告を行いました。第三はわいわいテニスです。外国人も若い方もいます。その中で支部活動の質の発展を、今後とも活発に行っていく予定です。

堺支部 (浅田勝美)

友好協会として行政とのかわりをどうするかということ、国際課と懇談を行い、メルマガジンに掲載していただいています。

城北支部 (森脇篤子)

仲間ふやしもなかなかで、早く70名にと願っています。帰国者支援署名では600の目標で911集めました。中国映画鑑賞会を10名前後の集まりですがこれまで4回実施しました。

中国百科検定に向けての学習会や対策講座の他、台湾問題の学習会を行いました。

西支部 (山本範枝)

支部では現在まで「中国百科検定」には初級4名、3級13名、2級10名、1級5名、特級1名が合格しています。引き続き知は力なり、継続は力なりで中国への絆を一層深めています。

中河内支部 (栗山俊子)

東大阪支部から中河内支部へと変更しました。組織拡大ではうれしい報告ができませんが、年金者組合と合同で、河内の歴史文化講座や中国語講座を開始しています。

女性部 (浅田美奈子)

コロナ禍で幾つかの活動が中止になりましたが、ドキュメンタリーの視聴学習と「共同富裕」について学習しました。22年度の予定として王希奇「二九四六」展の鑑賞会と勉強会を行います。延期となった『活きる』上映会です。

さらに「カジノ住民投票について」(西澤信善) 「帰国者支援署名のとりくみについて」(石井勉) 「王希奇「二九四六」展について」(坂手日登美) など9名の方が発言されました。

新支部結成表彰として富田林支部に「協会のぼり」が送られ、物故者の顕彰は、3名の方に「記念品」が渡されました。

メッセージ23団体と政党から頂きました

中華人民共和国駐大阪総領事館、日本共産党参院議員山下よしき、日本共産党衆院議員宮本たけし、非核の政府を求め大阪の会、進歩と革新をめざす大阪の会、全日本年金者組合大阪府本部、ア協会・大阪、日本ユーラシア協会大阪府支部連合会、原水爆禁止大阪府協議会、大阪平和委員会、大阪府保険医協会、大阪府歯科保険医協会、大阪民主医療機関連合会、関西合同法律事務所、全大阪生活と健康を守る会連合会、大阪自治体問題研究所、全大阪労働組合総連合、日本中国友好協会会長・井上久士、兵庫県連合会、福岡県連合会、

新役員紹介 (敬称略)

会長・渡辺武。副会長・山本恒人。理事長・松尾豊。事務局長・近藤好幸。事務局次長・澤野井公夫。常任理事・浅田美奈子、石井勉、片山英徳、恒岡正勝、西脇義彦、浜正幸、松原弥寿夫、岡田英樹。理事・浅田勝美、上村康夫、尾中妙子、小部修、栗山俊子、早乙女実、坂手日登美、佐藤倫理、土井一正、西澤信善、登り山和希、藤崎光子、藤田大輔、平松悦雄、前田尋、森西武志、森脇篤子、平澤京子、長山瑛子、高田佳誉子、山本範枝。会計監査・伊藤滋高、西本博文。顧問・石川元也、小林徳子、藤後博巳。参与・西村成雄。(敬称略)

大会宣言

日本中国友好協会大阪府連合会は、第68回大会を7月24日(日)国労大阪会館において、開催いたしました。
 大会には、31名の会員がつどい、各支部の「活動の5原則」に基づく活動、創意ある活動で昨年より増勢で大会を迎えることができました。

府連では3年ぶりとなる富田林支部の誕生・結成の報告は参加者を勇気づけました。
 当面の活動として、9月1日から募集が始まる、12月3日

府連事務所の夏休み
 日中大阪府連事務所の夏休みは8月12日から17日まで、中国語講座は8月9日から25日まで休みます。

葫蘆島からの邦人引き揚げを描いた「一九四六」神戸展
 8/31(水)~9/4(日)
 10:00~18:00
 原田の森ギャラリー
 神戸市王子公園隣り
 入場料大人1000円

府連事務所の夏休み
 日中大阪府連事務所の夏休みは8月12日から17日まで、中国語講座は8月9日から25日まで休みます。

2022年7月24日
 日本中国友好協会
 大阪府連合会第68回大会

東アジアの2つのうず巻き

その1・衝突へのうず巻き

「一つの中国」論を掲げながら中国を翻弄する米政権

ニクソン・キッシンジャーが演出し、東西冷戦後のアメリカの歴代政権の対中国基本政策思想となった対中関与政策は、トランプによってデ・カップリング（関与から分離へ）に向いました。

それが台湾との断交後の米国の台湾政策を盛り込んだ「台湾関係法」です。「米国が台湾の防衛支援を約束した」と同法は「アジア太平洋地域における米国の外交政策の最も重要な柱の一つ」であると、同じ民主党であるバイデンを揺さぶったので「一つの中国」論を掲げつつ台湾防衛に主力を注ぎ、と。

ペロシ議長長の訪台は軍事衝突への誘導

トランプを退けたバイデン政権は、政治・経済・軍事にわたる全面的な戦略的競争、「民主主義対専制主義」の価値観対決を柱とする対中分離・封じ込め政策として、しかもアメリカ単独ではなく同盟国と一体化した世界戦略として、全方位で展開中。改革開放の40年、国際的環境の安定という基礎条件に恵まれて経済発展に注力できた中国にとって、全面対立の様相に変わりつつある国際的環境は一変事にはかなりません。

バイデンとしては「インド太平洋構想」に則ってアジア太平洋全域で中国を締め上げるとともに、中国のとりわけ習近平政権の歴史的課題となっている台湾問題で優位に立つことが、彼の戦略展開の要となっています。しかし、米中国交回復後、長期にわたってアメリカ自らが従ってきた「一つの中国」論という原則的立場は簡単に毀損することはできません。ペロシは対中強硬派としてその原則を気にせず、米中関係に楔を打ち込める手立てを携えて登場しました。

それが台湾との断交後の米国の台湾政策を盛り込んだ「台湾関係法」です。「米国が台湾の防衛支援を約束した」と同法は「アジア太平洋地域における米国の外交政策の最も重要な柱の一つ」であると、同じ民主党であるバイデンを揺さぶったので「一つの中国」論を掲げつつ台湾防衛に主力を注ぎ、と。

習近平主席は直前、バイデン大統領との電話首脳会談で、『火遊びをすれば必ず焼け死ぬ』と、ペロシ氏の訪台を直接牽制しました。ペロシ氏も「面子をつぶされたわけです。もちろん面子というより、米中関係の政治的ベース、すなわち〈中国はただひとつ〉〈台湾は中国の一部〉〈中華人民共和国が中国を代表する唯一の合法政府〉からなる「一つの中国」論の存否に関わると考えるのは当然です。

宣言通り、従来の規模を大きく凌いで台湾をすっぽり囲い込んでしまうような大軍事演習の実施に踏み切りました。ただ、ペロシ議長が台北を離れた4日からの開始で、ある種の抑制は効かせています。しかし、台湾の政権は長期にわたって極めて重大な軍事的圧力、一触即発の危機にさらされます。おまけにペロシは同盟国全首脳の訪台を呼びかけているのですから、衝突の仕掛け人と言えましょう。

(府連副会長 山本恒人)

平和と戦争について語ろう

堺平和のための戦争展2022

この夏堺支部は、7月23日24日「堺原爆展―核なき世界へ―」活動レポート「空襲犠牲者が訴えるいのちをかけた平和運動」7月27日～31日「平和の壁に花を一輪を―関西平和美術展」7月30日～31日「堺平和のための戦争展2022」に参加し不再び、歴史の真実を学ぶことの大切さを強く感じました。

「堺平和のための戦争展2022」は、コロナ感染のために3年ぶりの開催になりました。堺支部は実行委員会に参加し「日本軍毒ガス遺棄問題・万人坑」の展示を行いました。

万人坑の展示写真を見ても大きくして説明書も大人用と子ども用を作成、書籍も充実させました。ステージは「四國五郎が伝える戦争の記憶」「暁光高校平和ゼミナール平和



女性部「王希奇展」事前ミニ学習会

9月2日（金）女性部で「王希奇展・一九四六」神戸展鑑賞会を企画しています。

7月28日（木）松尾豊理事長を講師に、府連教室で事前学習会を開催、5名の参加がありました。

「引き揚げ」とは国外から日本本土に帰ってくることを言うそうです。日本の敗戦後旧満州から多くの日本人が引き上げてきました。その一つは乗船港胡蘆島からは105万人が引き揚げてきました。過酷な状況の中、中国東北

部から乗船港に指定された胡蘆島に集まりました。王さんは胡蘆島近くの錦州市生まれで引き揚げの歴史を聞いて育ちました。平和への思いから引き揚げの当時の姿を思い浮かべながら、縦3m横20mの「一九四六」を描きました。

現在 ソ連・ウクライナとの現状下、戦争がどんなに無意味なものであるか、日本人の私たちは良く解っています。このような大作の壁画を少しでも多くの人に観賞してほしいです。

(山本 範枝)

太極拳全国指導員講習会に61名参加

コロナ禍でなかなか開催ができませんでした。活発な意見交換がありました。全国的な7月16日～18日、愛知県蒲郡市の三河湾に面したホテル竹島で開催されました。

北は群馬から南は長崎まで14都府県から61名が参加されました。講習会は高橋全国指導員、恒岡全国指導員、青木全国指導員の3クラスに分かれて、簡化24式太極拳の講習を受けました。9月1日から第113期講習会が始まります。

村田はな子さんの遺志を受け継ぐ

市民公開講座 大牟田赤痢爆発事件

7月21日「日中堺支部第7回 市民公開講座」を開催しました。「市民公開講座」「一九四六王野口さんは1937年9月25日 希奇絵画展」9月1日現地鑑賞に福岡県大牟田市内で発生した「大牟田赤痢爆発事件」の真相について報告しました。

7月12日死亡「大牟田赤痢爆発事件」赤痢原因説は、日本軍や国による戦時の毒ガス製造事故（三井三池染料工業所（現三井化学））を隠蔽した可能性を指摘しました。堺支部、大阪西支部、府連、桃山学院大学大学院中国留学生、中国語通訳者中国残留3世など26名が参加し、アンケートには、毒ガス事件についてもっと知りたいという感想が寄せられました。



府連大会終わりに、菊池さんから母（村田はな子さん）の遺品から戦争展の写真がでてきたと話されました。村田はな子さんは日中大阪府連の役員をされていて、ご主人の日本軍鉄兜・飯盒などを戦争展に寄贈していただきました。「堺平和のための戦争展2022」で展示させていただきます。（写真）村田はな子さんの遺志を受け継ぐ日中不戦活動に取り組みます。ご冥福をお祈り申し上げます。

(堺支部 上村 康夫)